FIWC関東委員会　定例委員会報告　2001年9月

参加者；中村博志、西尾雄志、浅利絵里香、伊藤祥江、茂木亮、高津阿礼、山口智子、磯田浩司、目黒美穂子、服部雅行、潮田広行、原田健一、笠眉彦（飲み会のみ参加）

FIWC 関東委員会 9 月定例会
(2001 年 9 月 12 日)新中野、目黒針療院にて

活動報告

韓国キャンプ（FIWC 関東委員会）

１．主催；FIWC 関東委員会、韓国外語大学校･ハナ会
２．キャンプ日程；８月１日（水）～８月１１日（土）
３．キャンプ地
大韓民国　全羅北道　井邑（チョンウプ）市　イピョンミョン　井愛園（ジョンエウオン）
４．参加者；日本側：２２名
松本譲（リーダー）、巽重雄、江辺二郎、橋本浩清、劉哲宗、佐藤正明、池澤由寿、金猛、鈴木幸紀、小熊裕文、永戸裕之、仲井夕可里、角田幸子、半田真美香、山極尊子、川村雅子、佐瀬亜矢子、松長麻美、桑原陽子、塚越友紀、李玲子、山田隆夫
韓国側：約２５名
リーダー：リュ・ワンソク他（ＯＢなども多数参加）
５．ワーク内容
(1)．塀の修復…壊れかけた塀を取り壊し、新たに塀をブロック・セメントを用いて構築
(2)．ペンキ塗り…村の集会所の外壁・内壁すべてにペンキを塗り直した
(3)．排水溝掃除…排水溝に泥やゴミがかなりたまっていたので、掃除を行った。
(4)．草刈り…道路や排水溝の周りを中心に、村の

バングラデシュの少女(ランガバリ島にて)　撮影;西尾

9 月定例会報告内容＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
韓国キャンプ報告(FIWC 関東委員会)
長島愛生園夏祭り・チンドン隊(FIWC)
シンポジウム「差別と共生を考える」(FIWC 関東委員会)
耶馬溪稲刈りキャンプ（FIWC）
浜松キャンプ（SCI ジャパン）
第 5 回勉強会開催（FIWC 関東委員会）
一人芝居「地面の底がぬけたんです」(FIWC 関西委員会)
NGO 団体 “ GOOD ” 紹介
国内キャンプキャンプ地募集

かなりの規模で草刈りを行った。

(5)．トイレ建設…村で共通利用するトイレを建設した。簡易トイレを購入し、その土台部分や周辺の地面をセメント舗装した。

(6)．土嚢作り…土嚢袋に土を詰めて、大量の土嚢を作成した。

(7)．その他…豚の世話や家庭ワーク、掃除など

６． キャンプ費用

・キャンプ参加費：(一人あたり全日参加の場合) 18000 円（交通費・保険代・FIWC 年会費等は除く）

・総費用：約３０万円　（FIWC として）

・寄付：巽重雄、江辺二郎、橋本浩清、劉哲宗、李玲子、山田隆夫、松本譲

７． 反省会および来年のキャンプについて

・反省会を９月１５日～１６日に、熱海で行う。22 名のうち、15 名が参加予定。

・来年のキャンプのリーダーは佐藤正明が務めることに決定した。

８．(1) 村の印象について

初めてキャンプを行った村であったが、村の人は大変好意的で、特に村の青年会の人たちが積極的に私たちと交流を求めてくれたので、親睦を深めることができた。来年以降も是非この村でキャンプを行感想いたい。

(2) 日本側の参加者について

日本側の参加者について、ＯＢを除くと新規参加者はすべて現役の大学生となったが、みな個性的で、しっかりと自分をもっており、そして何より韓国が好きなので、充実したキャンプを作り上げることができた。

(3) キャンプ中の生活について

今回生活した宿舎がかなり不自由な点が多かったことや、また、日本と韓国の文化の違いから、若干生活面において問題が生じることもあったが、各自工夫して乗り越えることができた。

(4) 食事について

基本的に韓国料理が中心であったが、時折日本から持ち込んだ食材で料理を作ったりし、特に食事面で不自由することはなかった。

また、村人に対して行った日本食パーティーも盛況であった。

(5)ハンセン病について

キャンプ中、個人的にハンセン病回復患者の村人と交流する人もいたが、全体としてハンセン病について取り組む機会が少なかったことが結果的には残念である。

(6)ワークについて

今回のキャンプはかなりワーク内容が充実しおり、猛暑の中厳しい労働であったが、皆よく頑張ってそれぞれのワークを成し遂げることができた。村の人にも大変喜んでもらえた。

９．問題点および課題

(1) 準備段階でのコミュニケーション不足

キャンプ日程について、当初 FIWC 側では８月１２日までとしていたが、ハナ会の方では「帰国」が８月１２日と思っていたらしく、ハナ会メンバーはキャンプは８月１０日で終了するものと思っていた。事前のコミュニケーションが取れていなかったことが原因である。結局、ワークのキリがついた８月１１日でキャンプを終了することになった。

ハナ会だけではなく、日本側も含めて、事前のコミュニケーションをもっととるべきであったと思う。

(2) 日本人ミーティングの開催

キャンプ中、もちろん韓国人と仲良くなることはいいのだが、文化や生活面などの違いやワークの実施方法などからも考えると、日本人だけでミーティング等を開き、今起こっている問題点や、不満点な

どを、日本人の中だけで話しあい、改善していくことも必要であると切に感じた。

１０．総括

ここ数年間、関東委員会の韓国キャンプはリーダー不在、参加者が数名という非常にお寒い状態であった。正直に言って、もし今年キャンプがうまくいかなかったら、今年で関東委員会の韓国キャンプは幕を閉じた方がいいと思っていた。

４月くらいから FIWC 関東委員会の他キャンプのメンバーを中心に参加者を募ってくれ、そして 22 名という多数の人が参加することになり、まずはそのことに関して準備段階から関わってくれた人たちに感謝したい。

そしてキャンプ自体も、私の中での「韓国でのワークキャンプは限界だ」という考えを吹き飛ばすほど、中身の濃い、充実したものとなった。

キャンプが終わった今でも日本側・韓国側と関わらず、お互いに連絡を取って、集まったり、キャンプのことを思い出したり、韓国のことを話題にしている。

そして、来年のリーダーも決まり、ここ数年衰退していた関東委員会の韓国キャンプはまた盛り返そうとしている。

せっかく今年、これだけのキャンプを作りあげることができたのだから、これからもこのキャンプが末永く続くことを私は期待しています。

2001 年関東委員会　日韓合同ワークキャンプ

総リーダー　松本　譲

※実際に私がキャンプに参加したのは４日間だけです。そのため、ここで書いた文章に漏れや誤解もあるかも知れませんが、何卒お許しください。

長島愛生園夏祭り・チンドン隊

瀬戸内海に浮かぶハンセン病療養所「長島愛生園」で毎年恒例の夏祭りが行われ、関東・関西・岡山などから集まった 35 人がチンドン隊として参加しました。音楽隊やダンサーチームがそれぞれに仮装したり着飾ったりして、楽しく賑やかに、園内を 4 時間ほどかけてを練り歩きました。

1996 年に初めて参加して、今年で 4 回目。チンドン隊もすっかり馴染みの行事になり、私たちのことを楽しみに待っていてくださる園の方もいました。病室のベッドの上で手をたたいてくれたり、窓を開けて一緒に唄を歌って楽しんでもらえる姿を見て、真夏の太陽が照りつけるなか汗だくで練り歩く私たちの原動力になりました。

次の夏も、その次の夏も、喜んでくれる方がいるかぎり、チンドンやりたいな・・・

（報告：茂木亮）

mog@mognet.org　http://www.mognet.org/

シンポジウム「差別と共生を考える」

9 月 29 日に森元美代治さんを囲んで、「差別と共生を考える」をテーマにしたシンポジウムを行ないます。このシンポジウムでは、森元さんに講演をしてもらうだけではなく、差別と共生を考える座談会も同時に開催します。自分とは異質な他者を前にしたとき、その他者を排除し、差別するか、それとも何らかの関係を結び、共生していく道を探るか、といった問題は、ハンセン病の歴史とワークキャンプ双方に共通するテーマだと思います。座談会では森元さんをはじめ、予備校講師の酒井敏行さんと現役のキャンパーをまじえて、そういったテーマを話し合います。こういった話し合いを通じて、差別や共

生といったような社会問題に対して、ワークキャンプというものが一体、どんな可能性や力を持っているのか、といったことが見えてくればいいな、と思っています。会場や日時など詳しい事は別紙のビラを参照してください。
連絡先；西尾雄志

耶馬溪稲刈りキャンプ（FIWC）

大分県の耶馬渓町で農業をしている鈴木さん（FIWC の OB）の家にお邪魔して稲刈りを中心としたワークを行います。お問い合わせは下記まで。
原田健一

浜松キャンプ（SCI ジャパン）

浜松の上島という所にあるブラジル人学校でキャンプを行ないました。キャンプには、ＳＣＩの呼びかけでドイツ、韓国、フィンランド、ポーランド、スペイン、ネパールなどから多くのキャンパーが集いました。また海外からだけでなく、過去にフィリピンキャンプに参加した人、ネパールキャンプ、韓国キャンプ、バングラキャンプに参加した人などが参加し、いろんなキャンプの話が飛び交う場にもなりました。ワークは学校のペンキ塗りを行ないましたが、ペンキ塗りは早々に終わってしまい、残りの日々はディスカッションや浜松観光、海水浴、浜松のＮＧＯの紹介など様々なイベントが催されました。キャンプ中は参加者が交代で各国の料理を作り、毎日エスニック料理屋で食事をしているかのようでした。個人的には韓国のビビンバがうまかったです。今回の浜松キャンプは、多くの国から参加者が着ただけでなく、日本人キャンパーも過去に様々なキャンプに参加した人が集ったので、互いのキャンプを知るいい機会になったと思います。また、今回のキャンプでは、地元に住む日系ブラジル人もキャンパーとして数名が参加しました。そういった意味でも多様な参加者が集まった面白いキャンプでした。（報告；西尾雄志）

第 5 回勉強会

大方の予想に反してなぜか好評をはくしている勉強会を来月も行ないます。日時は 10 月 6 日（土）7 時より、場所は早稲田大学にて。発表者を一人決めてその人の話を中心に進めるより、みんなが自分の意見を交換できるようなディスカッション形式のほうが、評判がいいようなので、今回もそういった形で勉強会を行ないます。進行は中村博志が行ないます。話し合いのテーマは、そのうち中村君が見繕って、メールにでも流します。内容などお問い合わせは下記まで。
中村博志

一人芝居「地面の底がぬけたんです」

ＦＩＷＣ関西委員会と交流の家が主催になり、1 人芝居「地面の底がぬけたんです」が開催されます。日時は 10 月 6 日（土）午後 3 時より、場所は大阪梅田駅近くの中山文甫会館です（詳しい事は別紙参照のこと）。以下、関西委員会の青山哲也さんからのコメントです。
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
今回関西委員会はＯＢである木村聖哉さんプロデュースによる一人芝居「地面の底がぬけたんです」の公演を主催することになりました。キャンパ

ーの皆様にはぜひ観劇に来ていただきたく、ご案内させていただきます。

この作品の原作は邑久光明園に入所していた藤本とし（故人）さんの同名随筆です。療養所に暮らし盲目となってもなお心豊かに生きた彼女の姿が生き生きと伝わってきます。また、この原作の出版には交流の家管理人飯川梨貴さんとＯＢの編集者、那須正尚さんの尽力があり、その意味でも関西委員会とは縁が深く、キャンパーの方には見ていただきたい作品です。

日時は、10 月 6 日（土）で午後三時からです。会場は梅田駅から徒歩10分の所で、終演後は懇切会も予定しています。ぜひ同期のキャンパーでお誘いあわせ下さい。観劇料は 2000 円です。チケットは交流の家、あるいはモグネット(www.mognet.org)に連絡してください。また、公演を応援していただけるカンパの募集もしております。

それでは、公演当日お会いできますことを楽しみにしています。

NGO 団体“GOOD”紹介

97 年フィリピンキャンプメンバーの磯田浩司君が、NGO 団体“GOOD”を立ち上げました。“GOOD”とは、“the Global Organization Of Dreamers!”の略だそうです。なんか面白そうな団体です。ホームページも開設しているらしいので、興味のある人は、覗いてみたら？　ちなみに事務所は池袋にあるそうで、誰でも訪問可との噂。海外キャンプもやってるみたいです。

以下、代表の磯田浩司氏による団体紹介文です。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

若いうちに視野を広げること、自分のフトコロを深くすることは、人生を豊かにすることです。そして、本当の意味で人生を楽しめる人間が増えれば、日本も、そして世界もよくなっていくのではないかと、私たちは考えています。

“good!”は、そんなキッカケのひとつになることを目的に 2001 年１月に無認可のＮＧＯ団体として設立されました。まだまだ小さな団体ですが、夢は大きいです。人生って本当はすばらしいんだ、ということをたくさんの人に気付いてもらうため、活動しています。

現在は、ワークキャンプを中心とした活動をしています。３月にはタイの東北部で、８月には韓国の牛浦湿原というところで行いました。不登校やヒキコモリを経験した若者、社会人、団体職員など、様々なジャンルからの参加者がありました。また、韓国の環境団体との提携で長期ボランティアの派遣も検討中です。

スタッフ、参加者とも、おもしろい人間がそろっています。あなたも是非、good!に遊びに来てください！

URL: http://www.xdsl.ne.jp/y/isk/
代表：磯田浩司

国内キャンプキャンプ地募集

報告にも書いたとおり、ＳＣＩ主催の浜松キャンプに参加してきました。SCI らしく多くの国からキャンパーが参加し、国際色豊かな面白いキャンプでした。そういった国際色の豊かさもさることながら、浜松キャンプのよかった点として、様々なキャンプに参加した日本人メンバーが参加し、それぞれのキャンプを知るいい機会になったことが挙げられると思います。現在、SCI と FIWC 関東委員会はフィリピンやネパール、バングラデシュなど様々な国々で

キャンプをしており、多くのメンバーが生まれました。そういったメンバーがそれぞれのキャンプ地の壁を越えて出会える場を作ろう！　といった動機で定例会を復活させて１年以上経ち、何とか定例会も軌道に乗った、といったかんじです。だけど、やっぱり、キャンプに集った人間は、またキャンプで出会うのが一番面白いのだということを、今回の浜松キャンプで感じました。こういった意味で、これからもっと国内キャンプが充実してくると、FIWC関東委員会もSCIジャパンも、もっともっと元気になるんじゃないかと思います。

　ということで、国内キャンプが出来るどっかいい場所ないですかね。最初からいきなり２週間くらいのキャンプをするのは無理にしても、土日のみの週末キャンプでもいいので、なにかいいところがあったら教えてください。

「こんな、ええ場所、ありまっせ！！」

という情報あれば、下記まで連絡求む。薄謝進呈（期待はするな）。

連絡先；西尾雄志

ＦＩＷＣ関東委員会会計より

＊年会費は3000円です。以下の人から年会費をいただきました（敬称略）。

川田茂子

どうもありがとう！！

＊むすび新聞にカンパをいただきました。ありがとうございました。（敬称略）

辺直子、木村聖哉、岡本義治・響子、川本了造、五十嵐昭夫、北島博久、鈴木孝三・ムツミ、井木沢稔、坂口一道、平川弘二、寄田猛、小谷収永・佳子、今田恵里子

どうもありがとうございます。

郵便振替口座番 00170-2-565117
加入者名；ＦＩＷＣ関東委員会

郵便貯金　記号10120番号00170-2-565117
口座名義；ＦＩＷＣ関東委員会

＊　領収書の発行を希望される方は、その旨お知らせください。

次回の定例会

2001年11月10日(土)19時から
東京・新中野「目黒はり療院」にて

//

発行元、編集
フレンズ国際労働キャンプ（ＦＩＷＣ）関東委員会
委員長　西尾雄志

//

編集後記

　数年ぶりにＦＩＷＣ関東委員会主催の韓国キャンプが開催されました。報告を見るといいキャンプだった事がうかがわれます。また、９月末には森元美代治さんを囲んだシンポジウムも開催予定です。こう見てみると、ＦＩＷＣが長年取り組んでいたハンセン病の問題が、再度活動の中心として踊り出てきたかのようです。まあ、兎にも角にも韓国キャンプ復活おめでとう！！　特に総リーダーを務めた松本譲君！　お疲れさま！！！　　（文、西尾雄志）